

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

**小学校低学年の児童に、
集中して話を聞くことを教える。**

学級の実態

- 何らかの支援が必要な児童が多い。
- 集中がとぎれやすく，持続が難しい。
- 話を聞いて理解して行動することが十分でないため，学力が身につみにくい。
- できている児童を褒めることで，他の児童も気づいて行動できる。

教員の考え

○集中して話を聞けるようになってほしい。



アドバイザーからの助言

集中して話をきく

- 「集中力」について具体的にしぼる。
 - * 聞く場面で素早く聞く姿勢を整えることができる。
 - * 1分間の話を姿勢を崩さない状態で聞くことができる。
 - * 指示したことを理解して行動にスムーズに移すことができる。
- 集中して学習できる手立てを考える(課題の量や内容)。



指導目標 1

集中して話をきく

教員が「話をします」と言った時に、聞く姿勢をして1分間話を聞くことができる。

聞く姿勢：手をとめる 手は後ろ 教員を見る

【ベースライン】

- 10月2日～10月19日
- 担任が「話をします」と言ってからストップウォッチで1分間測定。

方法

【対象児】

通常学級 低学年児童 23名

【指導場面】

「本時授業のめあて」を聞く時

【記録方法】

名簿にチェック

→聞く姿勢を保って、教員の話が聞ける児童(1分間)

【記録用具】

ストップウォッチ 名簿 掲示用記録

ベースライン



聞く姿勢を保って、教員の話が聞けている
児童の数(1分間)

支援方法①

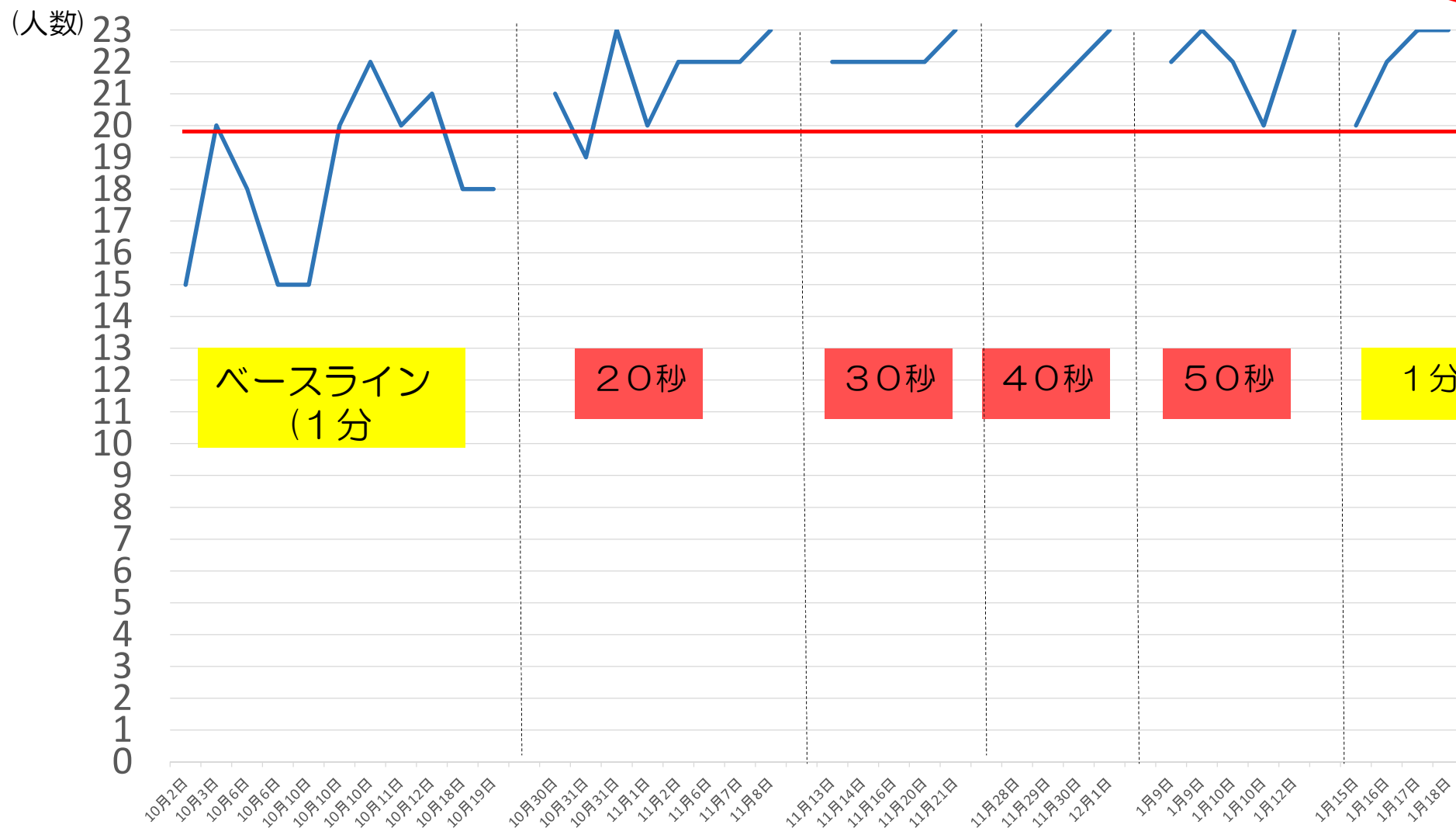
小さな目標からスタート

- 【ステップ1】 20秒
- 【ステップ2】 30秒
- 【ステップ3】 40秒
- 【ステップ4】 50秒
- 【ステップ5】 1分

体感できるようにする
「〇秒ってこのくらい」

結果

達成基準：
20人以上が3回



聞く姿勢を保って、教員の話が聞けている
児童の数(20秒～1分間)

結果

- 目標を小さなステップにしてレベルアップしていくことで，児童たちの意欲が高まり達成可能となった。
- 1つの目標に向かって，学級全員で頑張っていこうとする雰囲気が高まり，達成可能となった。

実施後の変化(観察)



- 以前は、「姿勢」と言われても、手をとめることができない児童が多かったが、すぐに話を聞く姿勢をとることができるようになってきた。
- 指示が聞けるようになり、取りかかりが早くなった。
- 指示が聞けるようになり、理解できる場面が増えた。
- 正しい姿勢を保って聞ける時間が長くなった。
- 朝会など、じっとして聞く場面で話をせずに人の話が聞けるようになってきた。

ここが成功のポイント



- 毎日繰り返し練習する機会が多い行動を目標に設定し、称賛する機会を増やしたこと。
- 教員の思いを具体的な目標として設定し、児童にも分かりやすくしたこと。
- ステップを細かくして児童個々の進捗状況を丁寧につかめるようにしたこと。